

## なぜクリスチャンが言い争うのか？

ピリピ人への手紙 4章 2節から 5節

- Pastor J.D.Farag 2019年2月24日(日)のメッセージ -

今日の聖書箇所は、ピリピ人への手紙 4章 2節から 5節です。私が拝読しますので、立ち上がって、目で追ってください。座ったままでも大丈夫ですよ。

使徒パウロは、聖霊様によって、このピリピ教会で生じた問題を取り上げて言っています。

ユウオデヤに勧め、ストケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。(2節)

ほんとうに、真の協力者よ。あなたにも頼みます。彼女たちを助けてやってください。この人たちは、いのちの書に名のしるされているクレメンスや、そのほかの私の同労者たちとともに、福音を広めることで私に協力して戦ったのです。(3節)

いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。(4節)

あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。(5節)

(ピリピ人への手紙 4章 2節から 5節)

ともに祈りましょう。

愛する天のお父さま、感謝します。あなたの御言葉、そして、私たちが集うことができるように、あなたが与えてくださったこの美しい教会堂を感謝します。

すべての心配事や忙しい日常生活、私たちの気を散らすすべてのもの、弱さから離れることができるこの時間を感謝します。

私たちはこの聖所に来て、あなたが私たちの人生に語るができるように、あなたに集中します。主よ、これが私たちの祈りです。お語りください。あなたのしもべは聞いております。

イエスの御名によって。

アーメン。

お座りください。ありがとうございます。

今日は、「教会の対立」と「私たちクリスチャンが言い争う理由」について語りたいと思っています。

今日の聖書箇所で、使徒パウロはふたりのキリストにある姉妹の争いを取り扱っています。どうやら彼は、このことを深く憂慮しています。彼は、「彼女たちがイエス・キリストの福音を広めるために自分といっしょに働いた」と言っています。

さて、このふたりの女性の間で、なにかが起こったようです。悲しいことに、そのことによってピリピの教会内でも深刻な問題が起こったようで、使徒パウロは、それについても憂慮しています。事実、彼がこの教会を開拓しましたから、この教会の多くの信者をパウロは個人的によく知っていたと、私は思っています。

また、この教会を開拓したときに、彼が、彼らをイエス・キリストによる救いに導いたはずで  
す。これに取りかかる前に、いくつかの重要なことについて見ていくと、私たちが理解する上で  
助けになると思います。

まず1番目に、これは聖書の別の箇所でもそうなのですが、神は、起こった出来事の詳細を省い  
た方が良いと思われたようです。言い換えるなら、私たちは何に関する争いなのかは分からな  
いけれど、争いがあったということだけは知っていて、神が争いの詳細は載せる必要はないと結論  
づけた理由があったのです。

私は、神の計画によるものだと思っています。

聖書の記述は普遍的なので、私たちの人生に応用しやすいのです。つまり、もしこの争いの内容  
を詳しく知っていたら、私たちは、「いや、それは私には当てはまりませんよ。私の問題とは違  
いますから。私には『その』問題はありません」と言ってしまいやすいのです。

そして自分と切り離してしまい、さらには、この大切な箇所をはねのけてしまう。

2番目。これは、もっと重要だと思います。パウロは争いについて語っているだけではなく、私た  
ちクリスチャンは、争いが起こったときにどのようにしてそれを解消することができるのかにつ  
いても語っています。

これは教会内の争いだけではなく、人生の全領域に適応できることを理解してください。夫婦間  
の争い。職場での争い。なんと、親業における争いにも関係しているのです。その理由は、これ  
らの原則は、あなたが破るのではなく、もしあなたが逆らうなら、それらがあなたを破壊するか  
らです。これらは神の御言葉の中であって、私たちが持っている、実証済みで、真の、不朽の原  
則です。使徒パウロが、聖霊様によってこの問題について私たちに語っているのです。

続いて、私たちクリスチャンが互いに争う3つの理由を挙げます。そのあとに、人生の全領域の  
どんな争いも、非常に簡単に解消する実際的な方法を2つ紹介します。

第一の理由は、「私たちが悪魔に足場を与えてしまうから」。ここからすべてが始まるのです。

パウロがエペソの教会に4章26節から27節で語っていることを聞いてください。

怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。

(エペソ人への手紙4章26節)

これは重要ですよ。怒ったままベッドに行くと、-つまり煮えくり返りながらです-ムカムカしな  
がら寝返りをうったりするでしょう。そしたら、なんと翌朝、目覚めると反キリストがいる。

ある面白い話を思い出しました。ある夫がこう言いました。

「私と妻は、絶対に怒ったままベッドに入らないんです。日が暮れるまで怒ったままでいないん  
ですよ。ときには朝2時に妻が這いつくばって、『ベッドの下から出て来て、男らしく戦いなさ  
いよ。この意気地なし!』って言うんですから。」

妻と私は、結婚初期に、「疲れているときには、夜に重い問題について議論しない」と決めました。その理由は、敵もエペソ人への手紙 4 章 26 節から 27 節を知っているからです。

あなたや私よりもね。

このときこそ、敵がより攻撃して来やすいんです。私たちが、いつもより無防備になっていることを知っているからです。一日中戦い、へトへトに疲れているので、重い問題について話し合うべき時ではないんです。だから、私たちは何年も前に決断したのです。

私と妻は結婚して 31 年になりますが、結婚生活の中でいちばん良い決断でした。問題がありません。でも、「朝まで待とう」って。

私たちは待ちます。なぜなら、神の恵みは朝ごとに新しいからです。その時に、この問題に取り組みます。神の恵みがあるからです。私たちが元気になって、祈りによって一日を正しく始め、主と時間を過ごした時こそ非常に興味深いんです。なぜなら、そうした時は...

みなさんが私を見て「牧師先生は完璧な結婚生活を送っているはずですよ」って思っているのは分かっていますよ。そうです。私は完璧な夫ですよ。敬虔な者です。雷を落とされるかな？  
(笑)

ある牧師が、こう言っていました。

「牧師夫婦は『ケンカ』はしない。『熱い分かち合い』をするんだ」

これが私の主張で、貫き通しています。

なにかについて議論していて、ヒートアップしてくると、面白いですよ。というのも、夫たちは議論を中断して、日が暮れるまで憤らず、ベッドに行き、翌朝起きる。すると、ほぼ例外なく、前の晩に、なにかについてあんなに熱く議論していたのか忘れてるんです。

そうですね？

なぜ、これが重要なのか？もし私たちが怒りに思いを巡らし、持ち続けて、発芽させるなら、基本的に、私たちは悪魔の策略にはまってしまうからです。そして、悪魔に足場を与えてしまう。悪魔がドアに足を踏み入れるのを許しているような感じです。

典型的な例ですが、悪魔にインチを与えると、マイルを持って行ってしまふんです。というより、1,000 マイルもね。悪魔を基本的に招き入れてしまうなら、悪魔は大混乱を引き起こすことが可能となるのです。特に結婚生活と教会において、結婚と教会が象徴していることのゆえに。

結婚は、私たちの花嫁なるイエス・キリストとの結婚の縮図です。私たちは花嫁です。

結婚した夫婦は、私たちとイエス・キリストとの関係のひな形です。だからこそ、サタンはキリスト教会とクリスチャンの結婚を格別に憎んでいるのです。だからこそ、攻撃してきます。悪魔は、足場を奪うことに躍起になっています。これが悪魔の策略であり、繰り返しますが、ここからすべてが始まるのです。

私たちが血肉に対して争うようにしむけるサタンの方法が、どれほど、巧妙かつ陰湿であるかは、どれだけ言っても大げさになることはないと思います。これは、もちろんパウロが「私たちの戦いは血肉に対するものではない」と語っているエペソ人への手紙 6 章のことです。

私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。

(エペソ人への手紙 6 章 12 節)

これが、パウロがコリントの教会に宛てて書いた悪魔の策略です。

「悪魔が用いる策略に、無知であってはならない」

私は King James Version が好きです。「悪魔のたくらみ」うまく表現している感じがしますよ。

悪魔は非常に狡猾です。悪魔は私たちが互いに争うことを願っています。血肉に対して。悪魔じゃなくてね。悪魔は敗北した敵ですから。悪魔はそのことを知っているけれど、私やあなたには、知られたくないと思っている。悪魔は「地獄の門は教会に打ち勝てない」ことを、あなたに覚えていてほしくないのです。

では私もあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。

(マタイの福音書 16 章 18 節)

サタンは教会を破壊することはできません。破壊しようと躍起になりますが、絶対に外側から破壊することはできないのです。しかし、内側から破壊してくる。

「どのようにしてですか？」

「ああ、簡単に言うと、悪魔は一日休暇を取ることができるように、私たちに自分の仕事をさせるんですよ」

「どうやってするんですか？」

「ああ、私たちが互いに争うようにさせるのさ。」

イエスが言われたことを思います。

「もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

(ヨハネの福音書 13 章 35 節)

そうですね？

それについて考えてみましょう。では、それをひっくり返してみましょうか。

私たちは、お互いに対する愛によって、世の人たちは私たちがイエスの弟子であることを知る。ということは、私たちの間にある、お互いに対する中傷、陰口、争いによって、彼らは私たちが本当にクリスチャンなのかを疑ってしまうのではないのでしょうか？

クリスチャンたちが敵に協力して、敵の職員になってしまう。

どうか誤解しないでくださいね。私は決してクリスチャンが悪魔にとり憑かれるとは言っていません。後日、テモテへの手紙第二で見ますが、私は、サタンの願望を果たすためにクリスチャンがサタンに利用される可能性がある、と言っているのです。

サタンは、ちょうどこのようにして、教会や結婚生活を滅ぼすために侵入してくるのです。私たちが互いに争い、戦い、言い争い、対立するようにサタンはしむけるのです。これがガラテヤの教会に起こっていたことです。

ガラテヤ人への手紙 5 章 15 節で、パウロが語っていることを聞いてください。

もし互いにかみ合ったり、食い合ったりしているなら、お互いの中で滅ぼされてしまいます。気をつけなさい。

(ガラテヤ人への手紙 5 章 15 節)

いいですか。サタンは教会を滅ぼすことはできませんが、中に入りこんで私たちをものにして、教会を滅ぼすことができるのです。

イエスは言われました。

「敵が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、あなたがいのちを得、満ち足りたいのちを、喜びに満ちたいのちを、祝福されたいのちを持つためです。」

(ヨハネの福音書 10 章 10 節)

ところで、悲しい時代です。「主張して、つかみ取れ！」というような、偽りの教義が広まっています。分かりますよね。神はすべての人に「お金持ち」になってほしいという信仰の教えです。

「あなたが、だれかさんに献金すれば…」みたいな。

すいません。その手の番組を、YouTube ですが、見過ぎたみたいです。

イエスは物質的な意味で言ったのではありません。ご自身が与えるためにやって来た「聖なるいのち（人生）、満ち満ちたいのち（人生）」のことを語ったのです。「半分」とか「三分の二」ではなくて、「完全で充実した豊かないのち（人生）」です。満ち足りたいのち（人生）です。

サタンの計画は、あなたの人生を破壊することです。これがサタンの方法です。

2 番目です。これは非常に重要です。「嫉妬心に心を奪われてしまうこと」です。もっとハッキリと言うなら、「食欲」に。互いに嫉妬し合う。

ヤコブが 4 章 1 節から 3 節で、こう語っています。

何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。

あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。

(ヤコブの手紙 4 章 1 節から 3 節)

つまり、あなたの心の動機が正しくないなら、神様は祈りに答えてくださらない。あー、なんと  
いうか、嫉妬や貪欲に関するところが、聖書にはたくさん書かれてあります。旧約全体に、貪欲の  
結果、人生が完全に崩壊する例が載っています。あなたをメタメタにするんです。妬みは、あな  
たの人生をダメにします。

繰り返しますが、サタンはそれを知っているんですよ！だからこそ、私たちの人生に滅びをもた  
らしたいサタンは、これを利用するんです。

私にとって、私たちクリスチャン生活と、とりわけ教会生活における争いの主な原因は、「妬  
み」です。サタンは足場を取ることに成功し、いま、ドアに足を踏み入れています。次に、サタ  
ンはあなたの思考に種を植え付けようとしています。

サタンは「全知」ではないことを理解してください。サタンはあなたが考えていることは分から  
ないんです。それを知っているのは神だけです。サタンはあなたの思いを読むことはできません  
が、あなたの思いに「考え」を植え付けることはできるのです。

これがどのように作用するのかたとえで説明しますね。

いいですか。あなたは教会にいて賛美をささげています。出だしはすごく良い感じですよ。

「♪主を賛美します♪」

すると、突然サタンがあなたの思いに「考え」をもたらすのです。

「なんで彼らが賛美チームなんだ？私の方が彼らよりも歌がうまいぞ」

さあ、いまや突如としてこの「自分こそが持つべきものを、ほかのクリスチャンが持っている」  
という貪欲、妬みが湧いてくるのです。突如として戦いが始まります。だから礼拝後に、こう言  
うのです。それもものすごく霊的な口調で。

「私、今日の賛美は好みじゃなかったのよ」

「そうだね。今日の選曲は、私が知らない歌だったわ」

「そうそう。賛美チームの女の子、なんていうか、音程が狂っていて気が散らされたよ。主を賛  
美しようとして良い感じだったのに、突然彼女の声でギョッとして妨害されてさ」

「そうそう」

そうです。私は賛美チームをいじめています。

言いづらいのですが、もしかしたら牧師たちはこのことになると、いちばんたちが悪いかも知れ  
ません。

ほかの牧師たちを妬む。

私も言わなければいけません、もちろん、これは私が初めてミニストリーに入った時のこと。  
初めて開拓した教会を牧会していた何年も前のことです。私は非常に若くて、学ばなければなら  
ないことがたくさんありました。いまでもたくさん学んでいます。

私が自分の教会とほかの教会を比較するようと、サタンはうまくやってのけたのです。サタンは、私の思いにこのように考えを入れてきました。

「ふむ。彼らは礼拝を3回、行っている。あそこは人がすし詰め状態だ。順調にやっていて、成長している」「自分を見て見ろよ」

妬み。食欲。本当に心を惑わすのです。

「だれかがだれかから掃除機を隠した」ということで教会が分裂していると言ったら、みなさんは信じてくれますか？いや、本当ですよ。

自分が掃除機をかけているのを人に見られたいので、別の人に掃除機がけ奉仕をしてほしくないんです。なんというしもべでしょうか。一台の掃除機を隠す。ところで、この教会の掃除機は一台だけじゃありませんからね。まねしないでくださいよ（笑）本当の話です。このことを話して、楽しんではいませんよ。でも、今日語っていることにふさわしいと思うのです。

「だれかがだれかより大きなチーズケーキをもらった」ということで、教会が分裂しているんです。ですから、今日、私たちはチーズケーキを完璧に均等に配分します。痛みを軽減するために、軽く考えた方がいいのかもしれませんが、痛ましいことです、事実なんです。

繰り返しますが、サタンはこのことを知っていて、私たちに知ってほしくないと思っている。もしかしたら、これは今日、ここにいるだれかに対する言葉かもしれません。

感謝なことに、主をほめたたえます。主は私の心をご存じで、主が私の証人です。この教会は、そのような問題は起こっていません。この教会は...、計算が合っていると良いのですが、創立してから14年です。14歳。

私たちの教会は、一度も分裂していません。そうです。ありがとうございます。みなさんが、牧会を喜びとしてくださっています。ハッキリと言えることですが、このように真心から言える牧師は、そう多くはいないんです。

この教会の牧師であることを喜び、特権に感じることは、みなさんのおかげです。ここは愛にあふれた教会です。私は、特に訪問者が来られたときにこう言います。

「もし私が牧師じゃなかったら、この教会に通います。食事だけでも最高ですよ。食事のためだけに第2礼拝にも出ます」

嫉妬は、教会生活の中で最も破壊的な原動力です。これも、もしかしたら今日、だれかのための言葉かもしれません。あなたの人生にいる「その人」は、あなたの敵ではありません。敵ではないんです。サタンはあなたをだまし、確信させるんです。

あなたの戦いは、「彼ら」に対するものだって。違います。「敵」との戦いなんです。「血肉」に対するものではないんです。あなたの上司は敵ではありません。あなたの妻、夫、さらにはあなたの子どもたちも、あなたの敵ではありません。サタンこそが敵です。暗やみの主権、力が敵なのです。

これが最後です。

私たちが争う理由。それは、私たちがプライドで一杯だからです。それゆえ、私たちは自分のプライド、エゴの中ですぐに傷つく。

箴言12章16節を見てください。

愚か者は自分の怒りをすぐ現す。利口な者ははずかしめを受けても黙っている（箴言 12 章 16 節）

このように言わせてください。プライドの問題は、他人の言動に対して私たちが神経過敏にさせることです。神経過敏になる理由は、自分が一番だからです。

礼拝をしている。こういう賛美がありますね。

「♪イエス様。あなたがすべて♪」

嘘つき！ごめんなさいね。たぶん、自分に言っているんです。

イエスがすべてじゃなくて、「♪私がすべて♪」ですよ。正直になりましょうよ。私たちは、思うべき限度を超えて思い上がっている。そのような時、ストップウォッチをセットしてください。だれかがなにかをしたり、なにかを言って、あなたの気分を害するのは時間の問題ですから。

「うわっ！なんて図々しい！」

「あそこが私の駐車スポットだってことを知らないのか！」

おおー！

彼らは、あなたの専用の駐車スポットがあるなんて知りませんよ。

とんでもない！

みなさんが大好きですよ。私がこの教会を愛していることを、みなさんは知っておられると思います。みなさんを愛しています。私がみなさんのことが大好きなのは、みなさんに縄張り意識がないからです。意味が分かりますか？毎週、毎週、同じ場所に座る。

「私の椅子に座ろうだなんて考えるなよ！そこは、私が座るところだ！」

本当ですか？

面白いのですが、ふつう、みなさん最前列に座りますよね。でも、たしかヤコブだったと思いますが、「一番前のVIP席に座るな」と言っています。そうするなら、恥をかくことになる。

「失礼ですが、そこでなにをされているんですか？そこはだれその席ですよ。自分の席に移ってください！」

そうして恥をかいて、うつむきながら後席に行かなければならなくなる。うぬぼれてしまったがゆえに。

プライドとは、自分のことしか頭にないことなんです。自分だけ。なので、簡単に「ああ。なんて図々しい！いったい何様なの」となる。

これなんてどうでしょう？

「私がだれだか知らないのかい？」



何年も前に、妻があるCAと働いていたときのことを思い出しました。その人が、こんなことを話してくれました。彼女はファーストクラスにいたのですが、ある日、ひとりの傲慢で感じの悪い乗客が乗っていたんです。すべて命令口調で。

「ジャケットをかけてくれ！」「私の飲み物は、どこにある？」

まるで、自分がこの飛行機の持ち主であるかのように、どっしりと腰掛けて。それで、彼女がその人のところに行って、「なにか飲み物を持って来ましょうか」と聞くと、「私がだれか知らないのか？」って。

それに対して、彼女は「ごめんなさい。存じ上げないです」って答えたんです。そして、ファーストクラスとエコノミーを仕切っているカーテンを開けて、聞いたんです。「ちょっと！！この方、ご存じの人います？」

なんていうか、神聖さを感じますよね。うぬぼれるのではなく、自分を低くし、ほかの人を尊重するなら、気分を害されることはないんです。

ミニストリーに入った人たち、とりわけ牧師たちについて言われていることがあります。

「学者のような頭、子どものような心、そしてサイの皮膚を持つ必要がある」

そうですよ。私は、クリスチャンたちはしばしば、自分のプライドの中であまりにも皮膚が薄くなってしまっている（敏感になりすぎている）と思っています。すべてのことを個人的に受けとめてしまい、自分のことしか頭にないのです。使徒パウロがピリピ人への手紙2章3節から4節で語っていることをお聞きください。

何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。

(ピリピ人への手紙2章3節から4節)

これは、どんな争いも解消しますよ。ガソリンではなく、水を火の中に注ぐようなものなんです。

それでは山場を乗り越えて、「私たちクリスチャンが人との争いを解決できる方法」に行きましょう。単純化しすぎているように受けとめられないといいのですが、でも本当に単純なんです。当然です。私たちがクリスチャンとして、手に負えなくなって破壊をもたらす前に、争いを解消することができる2つの単純で効果的な方法があります。

第1の方法は、ひとことで言うなら、「柔和」です。柔和。

最近、柔和についてたくさん考えるんです。みなさんにもものすごく正直かつ率直に言えるとするなら、それは私が主に助けを求め続けている領域だからです。

私はもっと柔和になりたいんです。人への接し方、とくに妻に対する接し方、また、子どもたちに対する接し方において柔和になりたいんです。息子たちが小さかったときに、私も若かったので、彼らに対して非常に厳しかったんです。たぶん、こんがらがってしまうと思うのですが、要点は理解できると思います。

「酢より蜂蜜を使う方がたくさん得ることができる」

ですよ。

優しく、親切、柔和であることについて思ったんですが、私たち男性の問題は、それらを「弱さ」と同一視してしまうことなんです。

私たちが「紳士(gentleman)」と呼ばれるのには、理由があります。

私は「彼は紳士 (Gentleman=柔和な人)だった」と言われたいです。

パウロは、「柔和さ」が、私たちの人生を特徴付けるものになる必要があると語っています。言い換えるなら、彼は「互いに辛辣になるな！」と言っているんです。

「柔和になりなさい」

箴言 15 章 1 節は、こう語っています。

柔らかな答えは憤りをしずめる。しかし激しいことばは怒りを引き起こす。(箴言 15 章 1 節)

ときに、私たちの「言葉」ではなく、「言い方」が問題なんです。

例を挙げます。いま思いついたので、うまく伝わると良いのですが、もしうまく伝わらなければ、第 2 礼拝では使いません。(笑)

例です。2つの言い方で同じことを言います。そちらにいるアーティー兄弟を使わせていただきます。彼は気にしないと思いますので。アーティー・ケンドル 巡査部長。

「アーティー、君は本当に嫌な奴だよ」(笑)

もしくは

「アーティー！君は本当に嫌な奴だ！！」

おっと。ごめんなさいね。ゆるしてください。

これはケンカの売り言葉です。牙を剥き、争いがこの言葉の中にはあります。辛辣です。あきらかに怒りをかき立てます。私たちはこれを結婚生活でしてないでしょうか？私たちが言う「言葉」じゃなくて、「言い方」なんですよ。

すべての夫、妻が辞書から取り除くべき 2つの致命的な言葉があります。なにか分かりますか？言ったら分かるはずです。「いつもそう」と「絶対に〇〇しない」

「あなたはいつもそう」もしくは「あなたは絶対に〇〇しない」

「私が！？おまえはどうなんだ？？」

ためしにやってみてください。私が自分の経験から話しているのが分かると思います。私はこれを、嫌というほどやって来ましたから。でも事実なんです。それを証明する傷跡がありますよ。

妻は夫であるあなたに腹を立てていて、妻にしかできない方法で、どれだけ怒っているのかを伝えてくる。もし、あなたがこう言ったらどうでしょうか？

「すまなかった。君が正しいよ。主は、ずっと僕のその部分を直そうとされているんだ。」

まず奥さんは、信じられなくて呆然とするはずですよ。

「あなた、私の夫になにをしたの？夫に顔はそっくりだけど、夫がそんなこと言うわけないわ」  
もしかしたら、また自分の経験から言いますが、奥さんはあなたを試すかもしれません。

「いま、なんて言ったの？『君が正しい』って聞こえた気がするんだけど」  
それに対して、なんの葛藤も覚えずに、こんなふうと言える夫がいるのでしょうか？

「ハニー。君が正しいよ」「ハニー、すま、すまな...」

ハッピーデイズのフォンジーのように。私の年齢が分かっていますが、当時、私は3歳でした。彼はその言葉を発することができなかった。彼には、この言葉を言えなかったんです。そして私は、「私たちクリスチャンも同じだな」って思うんです。

箴言 25 章 15 節。

忍耐強く説けば、首領も納得する。柔らかな舌は骨を砕く。（箴言 25 章 15 節）

穏やかな言葉は、あなたがわめき散らすより、はるかに効果があるんです。私が少年だった頃のことを覚えているのですが、母は素晴らしい声帯の持ち主でした。実際、歌がうまかった。母は私を叱るとき、-しょっちゅうでしたが-決まった声の調子になりました。母は訛りのある英語で、甲高い声で怒鳴るんです。

「ワヒダ~~~~、ワーワーワーワー」

私はといえば、なにも聞いていない。最初の「ワヒダー」で、もう聞く気をなくさせてしまったんです。私は、母にまったく耳を貸さないんです。母の言葉を、ひとつも聞いていない。

一生忘れない出来事がありました。昨日のこのように覚えています。めったにない瞬間でした。母がものすごく優しく、穏やかに言ったんです。

「ハビディ」アラブ語で、「愛しい息子」っていう意味です。

「ちょっと話したいことがあるの」

「いま、なんて!？」

もうひとつ、私の年齢が分かってしまうことがあります。ちょっとだけ言わせてください。シャンプーのCMを覚えていますか？70年代だったと思いますが。女性がいて、すごく穏やかな声で、「だれかの注目をひきたくない？」と言って、囁くんです。

こんな感じです。だれかと話をしている、「ねえ、ちょっと。こっちに来て」って。

「なに??？」

それと対照的なのは...

「おい!!」

違いが分かったでしょうか。穏やかな舌は、骨を砕くことができます。

これは、パウロがテモテに書いていることですが、テモテへの手紙第二の2章23節から26節

愚かで、無知な思弁を避けなさいそれが争いのもとであることは、あなたが知っているとおりで  
す。主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍び、  
反対する人たちを柔和な心で訓戒しなさい。もしかすると、神は彼らに悔い改めの心を与えて真  
理を悟らせてくださるでしょう。

(テモテへの手紙第二 2 章 23 節～25 節)

彼らは救われているんです。でも、悔い改める必要がある。これがその理由です。よく聞いてく  
ださい。

それで悪魔に捕らえられて思うままにされている人々でも、目ざめてそのわなをのがれることも  
あるでしょう。

(テモテへの手紙第二 2 章 26 節)

なんですって？そうです。彼らは悪魔の罠に捕らえられて、悪魔の職員になってしまってい  
る。そして、悪魔の命令に従っている。「悪魔に捕らえられて思うままにされている人々でも、  
目ざめてそのわなを逃れる」これは教会、クリスチャンのことを指しています。サタンはクリス  
チャンを罠にはめて捕らえていて、いまや彼らは悪魔の代わり、悪魔のために悪魔の仕事をして  
いる。

2 番目の方法を言って、終わりにします。これは興味深いですよ。なぜなら、「主の再臨が近いこ  
とを知る」ことだからです。寛容になりなさいという勧告の後、5 節の最後でパウロはこう言って  
います。

「主は近いのです」

パウロは「主がそばにおられる」と言っているのか、それとも「主の再臨が近い」と言っている  
のかという疑問があります。私は両方だと思います。その理由を説明します。

「主の再臨が近い」と強調する理由は、前の節でパウロがこの世的思考と天的思考について語っ  
ているからです。言い換えるなら、主がすぐに戻って来られるという私たちの天的思考によっ  
て、

私たちは主の中で喜び、主に近づくのです。私たちが主に近づくとき、主が私たちに近づいてく  
ださる。その結果、私たちは互いに柔和に、そして愛情深くなっていくのです。

チャールズ・スポルジョンの言葉を引用して終わりにします。彼がうまく表現しています。

「不一致の解決策として、使徒パウロは『いつも主にあって喜びなさい』と言った。喜んでいる  
人は、特に主にあって喜んでいる人は、人を怒らせることも、逆に気分を害することもない。

(なぜ?) 彼らの思いは、より高い事がらでいっぱいになっているからだ。(天的思考です) 彼  
らは、不完全な被造物である私たちの中で、当然起こりうるちょっとした問題で煩わされること  
はない。主にあって喜ぶことは、すべての不和を解決するものだ」

主は近いのです。柔和になろうではありませんか。

祈りましょう。

天のお父さま。感謝します。今日の箇所は、あなたの御言葉の中で、私たちが自分の生活に実用  
できる箇所です。「あの人たちは、なんて愛にあふれているのかしら。ものすごく柔和な人たち  
ね。互いに親切にし、愛しあっている」と言われる者たちとして、私たちは数えられたいです。

主よ。感謝します。

イエスの御名によって。

アーメン。

-FIN-

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」  
(ヘブル4章7節)

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/> Calvary Chapel

Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Satoshi Suzuki 2019.04.16

---